

記念シンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」

6月25日、平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム「平城宮跡の過去・現在・未来」をなら100年会館で開催しました。新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止のため、事前申込制となりましたが、多くの方々にご来場いただきましたこと、御礼申し上げます。

本中所長のあいさつに始まり、奈文研OBでもある佐藤信東京大学名誉教授による基調講演「平城宮跡の調査研究・公開活用と奈良文化財研究所」が続きました。先生自身の奈文研時代の経験もふまえたお話を好評を博していました。

続いて、シンポジウムの報告にうつりました。内田和伸文化遺産部長「平城宮跡の史蹟指定」では、大正11年(1922)の平城宮跡の史蹟指定にいたるまでの経緯を歴史的背景も交えて丁寧に語るもので、わかりやすく聞き入ってしまったという声が多く寄せられていました。

神野恵都城発掘調査部平城地区考古第二研究室長「奈文研による発掘調査」は、発掘の歴史を写真とともに興味深く説明したもので、もっと聴きたい、お話を短く感じたとの感想が数多くありました。

最後の岩戸晶子企画調整部展示企画室長「平城宮跡の活用と未来」は、文化財の活用に関する内容で、話を聞いたことで色々な場所にある遺跡の活用について考えるきっかけになった、遺跡の活用に興味がわいたという意見が寄せられました。

シンポジウム最後のパネルディスカッションは、本中所長のコーディネートのもと、パネラーの佐藤名誉教授、神野・岩戸両室長、山下信一郎文化庁文化財第二課長、中村孝国交省国営飛鳥歴史公園事務所長、中村俊介朝日新聞編集委員にくわえ、会場から内田部長、武内正和奈良県文化・教育・くらし創造部理事が参加し、平城宮跡の保存と活用で奈文研が今後担うべき役割、未来への展望について議論しました。所員だけでなく、関係諸機関の皆さんと様々な視点でこうした課題を議論できたことは、奈文研としても貴重な経験となりました。

発掘調査だけない奈文研の調査研究活動の一端とこれからの方針性を示すことができたのではないかと思っています。
(企画調整部 加藤 真二)

■ 記録 シンポジウム

平城宮跡史跡指定100周年・奈良文化財研究所創立70周年記念シンポジウム

「平城宮跡の過去・現在・未来」

6月25日(土)

328名

文化財担当者研修

○建造物保存活用計画策定課程

7月4日(月)～7月8日(金)

15名

○文化財デジタルアーカイブ課程

7月25日(月)～7月29日(金)

対面18名+オンライン50名

現地見学会

○飛鳥藤原第210次調査(藤原宮大極殿院)

8月6日(土)

468名

飛鳥資料館 第13回写真コンテスト

「高松塚古墳」

7月15日(金)～9月11日(日)

2,912名

平城宮跡資料館 令和4年度 夏期企画展

「大地鳴動

一大地の知らせる危機と私たちの生活—」

7月16日(土)～8月28日(日)

4,106名

■ お知らせ

<ボランティアガイドについて>

年々強まる猛暑のため、熱中症等による体調不良が予想されることから、ボランティアガイドを7月から9月の期間は変動的に対応しました。9月は空調設備のある平城宮跡資料館、平城宮いざな館展示室4については午前・午後とも活動としましたが、それ以外の第一次大極殿、朱雀門、遺構展示館、東院庭園は午前中のみの活動となりました。



基調講演中の佐藤信東京大学名誉教授